

2026/01/06

Pacifichem2025 参加報告書

東京大学大学院 薬学系研究科

博士1年 山本泰雅

この度、日本核磁気共鳴学会 2025 年度若手研究者渡航奨励金のご支援のもと、2025 年 12 月 15 日から 20 日にかけて米国ハワイ州ホノルルにて開催された The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2025 (Pacifichem 2025) に参加しました。本奨励金により国際学会に参加する機会を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。

Pacifichem は、環太平洋地域を中心に世界各国から化学分野の研究者が集う国際会議であり、基礎化学から応用化学、生命科学、材料科学に至るまで、極めて幅広い分野の研究成果が発表される大規模学会です。会期中は多数のシンポジウムが並行して開催され、最先端の研究動向を体系的に把握できる貴重な場となっていました。

本学会において、私は弊研究室の竹内恒教授らがオーガナイザーを務める “Biomolecular Structure and Dynamics: Recent Advances in NMR” セッションにおいて、会場設営およびプログラム進行を担当しました (Fig.1)。運営を通じて、各講演を演者の近くで聴講する機会に恵まれ、様々な発表者の講演を間近で体験できたことは大変貴重でした。Pittsburgh 大学の Angela Gronenborn 先生、伊島理枝子先生、中国科学院の Conggang Li 先生などによる ^{19}F NMR を用いた生体分子解析の展開、Peking 大学の Chun Tang 先生による solvent PRE に利用する錯イオンプローブの分子設計など、これまで十分に接してこなかった研究分野に触れることができ、自身の研究視野を大きく広げる契機となりました。

また、自身の研究成果については、“NMR Analysis of the Cholesterol-Mediated Regulation of CD19-CD81 Complex in Lipid Bilayers” という題目でポスター発表を行いました。本研究は、B 細胞共受容体である CD19 と CD81 の複合体が、膜中のコレステロール濃度変化に応じて構造および相互作用様式を変化させる可能性を、溶液 NMR を用いて検証したものです。液体 NMR 分野の研究者のみならず、横浜国立大学の内藤晶先生をはじめとする固体 NMR を専門とする国内外の研究者からもコメントや助言を頂くことがで

き、今後の研究方針を検討するうえで極めて有益な示唆を得ることができました。

ポスター発表会場は非常に広く、数多くの発表が行われていました(Fig.2)。有機化学分野の発表が多く、NMR 分野と密接に関連する研究として、Photo-CIDNP 法によるシグナル高感度化を目的とした新規試薬の開発などのポスター発表を聴講しました。これらの発表は、基礎化学と構造生物学が密接に連携して発展している現状を実感する機会となりました。

本学会は、私にとって初めて国外で開催される大規模国際学会への参加であり、最先端の NMR 研究動向に直接触れるとともに、世界各国の研究者に向けて自身の研究成果を発信する初めての経験となりました。多様なバックグラウンドをもつ研究者との議論を通じて得られた知見や刺激は、今後の研究活動の方向性を再考する上で大きな財産となりました。今回得られた経験を糧とし、より高いレベルの研究成果創出を目指して、今後一層研究活動に励んでまいります。

改めまして、本奨励金によるご支援に深く感謝申し上げます。

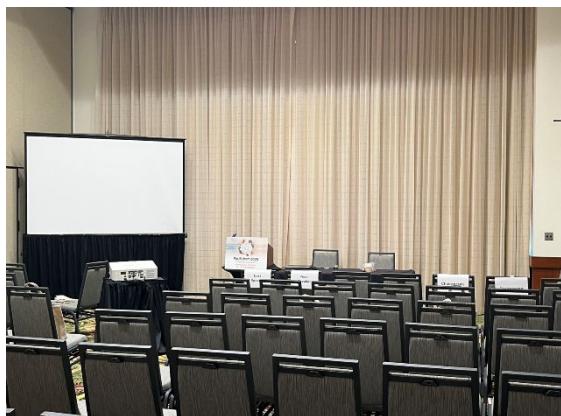


Fig.1 Oral 発表会場の様子。



Fig.2 Poster 発表会場の様子。